

# ドナウ通信

## 目 次

御挨拶	在ハンガリー日本国大使	田中 義具	2
新任のご挨拶	1996年度日本人会会長	大谷 南郎	2
日本人会1995年度会計報告			3
1996年度ハンガリー日本人会役員			4
ホルン首相訪日のご報告			4
大使館からのお知らせ			6
補習校便り			8
<作文>決勝戦	5年 玉木 由佳		9
	バシッ!バシッ!バシッ!		
	5年 中西 あずさ		10
かるた大会・もちつき大会			
	4年 唐澤 明子		10
おもちつき	中3 セーカチ・エステル		11
カルタ大会	中3 トウルチャーニ・タマーシ		11
カルタ大会	中3 トロム・ペーター		12
<随筆>奨学生時代の思い出	渡辺 まり子		12
	帰国して	瀬川 隆生	14
編集室より			16

## 御挨拶

在ハンガリー日本国大使 田中 義具

明けましておめでとうございます。

旧年中は色々と思いがけない出来事もありましたが、新しい年はより希望もてる年になりそうです。お隣の旧ユーゴ地域で慌ていた悲惨な紛争は、年末を前にした和平合意でようやく平和回復への気運ができました。我々の住むハンガリーでも、厳しい緊縮政策の結果諸々の経常指標は国際的評価を得る成果をあげるに至り、年が明けた現在では、この国がOECD加盟などを通じて世界の先進国グループに本格的に仲間入りできる日もそれほど遠くない見通しになってきました。

わが国との関係でも、先般のホルン首相の訪日によって新たな両国関係発展への基礎が築かれることとなりましたし、本年は建国千百年という当国における国民的なお祭を契機にして、両国間的人的、文化的交流が一段と進展することが期待されています。

わが国自身の状況も、これまで不透明とされてきた問題に本格的に取り組み動きがでてきて、低迷する不況にもようやく一筋の明るさが見えてきたように思えます。

こうした明るい希望をいだかせる内外の状況が本当に現実のものとなるためには、今後とも相当な努力が必要とされるでしょうが、我々としてもそれぞれの持ち物で、この新しい年がより希望に満ちた年になるよう貢献していきたいと思えます。

新年に当たり皆様の益々の御多幸と御健勝を御祈りいたします。

## 新任のご挨拶

一九九六年度日本人会会長 大谷 南郎

一月一日、田中大使閣下御夫妻主催の新年祝賀会で楽しい語りの中、新年が始まりました。私たちの日常生活は、人と人との関わりあいにおいて成り立っているのではないのでしょうか。顔を合わせて言葉をかわすと特に海外ではほっとします。

私も慣れない役職ですが気持ちだけは若返ってフットワークを良くし、文化・スポーツ・娯楽等の行事を中心に新役員の方々と精一杯アイデアを出し合い、皆様方と一緒に楽しく親睦と互助の機会を多く作って行き度いと考えています。皆様方の御参加、御協力をお願い致します。

昨年は、世界を取りまく環境も厳しいものがありました。年が明けた今年、平成八年は読んで字の如く末広がりの良い年になる様祈願致します。今年、ボスニア・ヘルツェゴビナの和平が加速され、ハンガリーを含めた近隣諸国の経済の活性化も期待される年であると同時に、ハンガリー建国千百年祭、として、さまざまな行事が予定されていると伺っています。

この記念すべき時期に運良く居合わせる日本人会々員の皆様、多いにハンガリー・ライフをエンジョイしようではありませんか。尚、末事になりましたが、丸山・伊藤忠商事ブダペスト事務所々長には昨年一年間、日本人会会長として御協力いただき誠に有り難うございました。

日本人会を代表して一言御礼申し上げます。

日本人会1995年度会計報告

(1996年1月23日現在)

1995年度ハンガリー日本人会

会長 丸山和正

@88Ft/DM

## [収入の部]

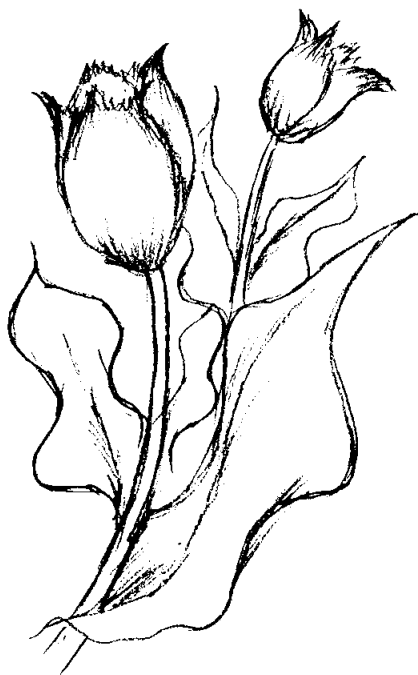
	DEM	HUF	USD
年会費(個人)		104,500.-	0.-
(商工会より)	38,300.-		
銀行利息	371. <sup>56</sup>	7,245. <sup>20</sup>	0-
遠足臨時会費		229,500.-	0.-
総会臨時会費		444,000.-	0.-
福引収入		257,000.-	0.-
Ftへの換金収入	△ 23,339. <sup>76</sup>	2,068,502.-	115.-
雑益	0. <sup>91</sup>		
合計	15,332. <sup>71</sup>	3,110,747. <sup>20</sup>	115.-

## [収支の部]

	DEM	HUF	USD
94年度繰越金	19,493. <sup>23</sup>	196,262. <sup>26</sup>	185.-
95年度収入	15,332. <sup>71</sup>	3,110,747. <sup>20</sup>	115.-
合計	34,825. <sup>94</sup>	3,307,009. <sup>46</sup>	300.-
95年度支出総額	13,303. <sup>44</sup>	3,207,662.-	0.-
現在残高	21,522. <sup>50</sup>	99,347. <sup>46</sup>	300.-

# 一九九六年度 ハンガリー日本人会役員

会長	大谷 南郎	丸紅ハンガリー社長
理事・文化	藤本 昌彦	日本国大使館二等書記官
理事・スポーツ	鹿目 俊郎	野村投資銀行ハンガリー社長
理事・レジャー	古川 淳	松下電器産業ハンガリー社長
理事・ドノウ通信	盛田 常夫	野村総合研究所研究顧問
理事・一般	山地 征典	エトヴェシュ・ロラード大学教授
事務局	酒井 由美子	ピアニスト



## ホルン首相訪日の二報告

在ハンガリー日本国大使館

(一) ホルン首相は95年12月9日に当地を立ち10日から13日までの朝まで日本(東京)を訪問しました。今回の訪問の目的については、全般的には、周知のように当国は欧州・大西洋地域への統合ということの基本目標に掲げていますが、それ以外の日本等主要国との関係も出来るだけ発展させたいということ、経済面では、訪問直前に発行された「ハンガリー銀行・株式新聞」の首相挨拶文に書かれているとおり、当国における日本の経済的プレゼンスを高める、特に投資の面でもっと出て来て欲しいし、もっと当国製品を買って欲しいという希望があり、これらの点につき日本で直接訴えたかったということがあったようです。

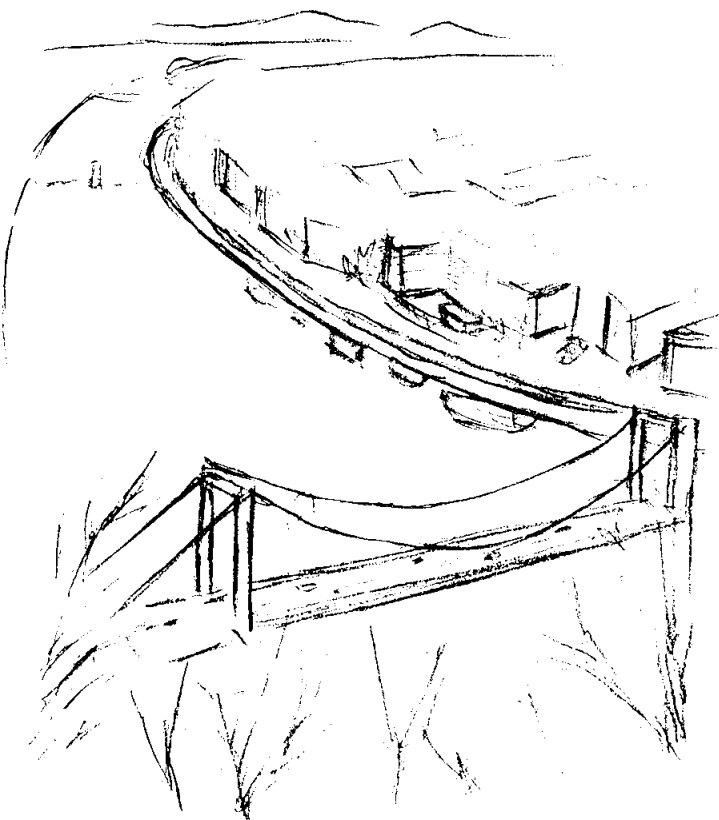
(二) こうして、ホルン首相は12月11日村山総理と会談し、12日には夫人を伴って天皇后両陛下に拝謁すると共に、河野外務大臣と会談及び両大臣主催夕食会に出席しました。また、橋本自民党総裁兼通産大臣及び武村大蔵大臣とも会談しました。

他方、具体的な経済関係促進のためには、訪問中、対ハンガリー投資促進セミナー及び経団連・日本ハンガリー経済クラブ共催の昼食会に出席し、また当地に進出している日本企業の代表者との会談や朝食会を通じ計100名を越える財界の人々と会いました。

(三) 村山総理との会談では、総理より、訪日歓迎の言葉に続き、今次訪問で両国間の特に経済関係がさらに深まる事を期待する、ホルン首相に対しては89年当時東独の人々の西独への出国を英断をもって認めこれが後のベルリンの壁崩壊等へつながったとして高く評価しているなどを述べました。これに対し、ホルン首相からは両国間の政治、文化関係は良好であるので、今回は経済面での関係を更に発展させるべく訪問した、具体的には、バルトン湖環境改善の為の日本の協力、旧ユーゴ復興の面での協力の可能性、さらにはハンガリーは中東欧の金融センターになりたいと希望しているのでこの面での協力を希望するなど述べ、総理からはそれぞれにつきできるだけ協力するよう検討したい旨答えました。河野外務大臣との会談では、右記の各点につきより詳しく意見交換が行われたほか、査証の問題、文化交流、経済協力の問題についても会談し、特に、査証についてはホルン首相から、両国間の投資、ビジネス、観光を促進するため、日本人に対し今後、1年までの数次査証を発給する。また、査証発給は世界中のハンガリー在外公館のほか、国境でも行えるようにするなどの措置をとる旨表明しました。このほか、ホルン首相からはOECDへの加盟につき日本の支援をお願いしたいとの希望表明があり、大臣からは、日本としても支援する旨答えました。ホルン首相はこの

ほか、日本の輸出入銀行からハンガリー輸出入銀行への5000万ドルの融資実施に関する覚書の署名に立ち会いました。

(四) このように、ホルン首相の日本訪問は当初の目的を十分達し、成功裏に行われたものと思われまます。ホルン首相自身、今回の訪日の成果に満足していることは、同首相が15日フェリヘジ空港に帰国した時の表情からも読み取れました。今回の首相訪日を新たな契機として日本とハンガリーとの間の関係が一層深まることが期待されます。



# 大使館からのお知らせ

## 外国滞在と運転免許

外国滞在中の運転免許に関する手続きについては、これまでも本紙で何度か取り上げてきましたが、今回改めてまとめて掲載いたしますので御利用ください。

### 一、外国行政庁発給の運転免許所得者の日本免許証への切り替え

外国行政庁の運転免許を有する方は、免許取得後、当該外国に三ヶ月以上滞在していれば、自動車などを運転することに支障がないことを確認した上で、我が国の運転免許を申請する際に学科試験及び技能試験が免除されます。ただし、申請時に当該外国行政庁の免許が有効なものでなければなりません。

☆手続きに必要な書類

① 当該外国行政庁発給の運転免許証

② 運転免許の有効期間、免許の種類、条件が明らかになる書類

(運転免許証自体によって明らかになる場合は不要)

③ 免許取得後の滞在期間を証明する書類(通常はパスポート)

④ 日本人の場合は住民票の写し(本籍記載のあるもの)

外国人の場合は外国人登録証明書とパスポート

⑤ 写真(三、〇×二、四cm)一枚(申請前六ヶ月以内に撮影)

⑥ 手数料 三、八〇〇円(普通免許の場合)

### ⑦ 免許証の翻訳証明書

日本語による翻訳文で、免許証を発給した外国の行政庁、当該外国の領事機関、又は、JAFが作成したものに限り。

### 二、日本免許を有する方が一時帰国(再来日)で更新する場合

更新は、住所地を管轄する公安委員会において行うことになっていますが、外国に生活の本拠があり、一時帰国した際に更新を行う者にあつては、特別に住民登録をする必要はなく、実家、ホテル等の一時滞在先を住所として更新を行うことができます。但し、その一時滞在先を確認できるもの(親やホテルの支配人の証明書等)が必要です。

☆手続きに必要な書類

① 運転免許証

② 写真(三、〇×二、四cm)一枚

③ 一時滞在先を確認できるもの

④ 更新手数料 二、二〇〇円

講習手数料(平成六年五月から講習が義務化されています)

優良運転者等講習 七〇〇円

一般運転者等講習 一、七〇〇円

⑤ 更新連絡書(あれば)

### 三. 帰国(再来日)の際、免許が失効している場合の手続き

(1) 失効後六ヶ月以内の場合

学科試験、技能試験を免除で、それまで取得していた免許が取得できます。

☆手続きに必要な書類

① 失効した免許証

② 日本人の場合は住民票の写し(本籍記載のあるもの)

外国人の場合は外国人登録証明書とパスポート

③ 写真(三、〇×二、四cm)一枚

④ 手数料 三、八〇〇円(普通免許のみの場合)

(2) 失効後六ヶ月以上経過している場合

技能試験及び学科試験の免除を受けるためには国外にいたことから更新できなかった旨の証明が必要です。また、帰国後一か月以内に申請しないと学科試験・技能試験とも免除されません。なお、失効後、三年以上経過している場合には、技能試験のみが免除されます。

☆手続きに必要な書類

① 失効した免許証

② 日本人の場合は住民票の写し(本籍記載のあるもの)

外国人の場合は外国人登録証明書とパスポート

③ 写真(三、〇×二、四cm)一枚

④ 手数料 三、八〇〇円(普通免許のみの場合)

※以上一〜三のいずれの場合も、申請先は住所地を管轄する公安委員会(免許試験場)になります。

### 四. 外国で免許証を紛失した場合

原則として帰国後に再交付申請手続きを行う事になります。なお、外国において免許証の携帯が必要な場合等は、親族等に対し、委任状により委任関係を明確にしてあれば、代理人でも申請が可能です。

☆手続きに必要な書類

① 委任状

② 写真(三、〇×二、四cm)一枚

③ 印鑑

④ 手数料 三、四〇〇円

⑤ 亡出、減失てん末書(公安委員会備付け)

※申請しようとする場合は運転免許試験場に必ず事前確認をしてください。申請先は、免許証記載の住所地を管轄する公安委員会(運転免許試験場)となります。

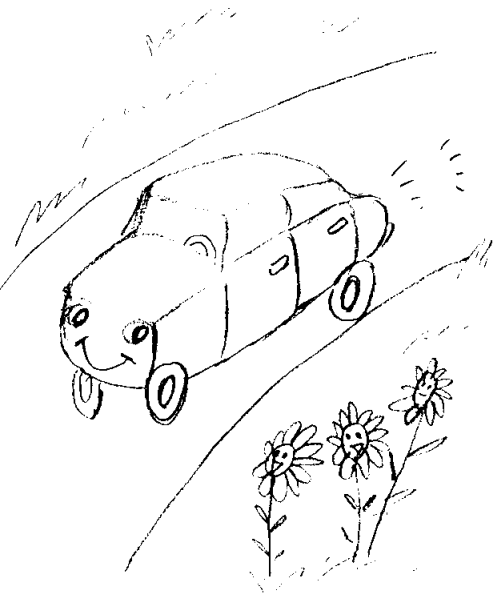
## 五・外国滞在中における国際運転免許証申請手続

合に外国に滞在中に在る人が、国際運転免許証を申請する場合も、前記四と同様代理人による申請ができます。但し、本人の日本の免許の有効期間の残りが三ヶ月以上ある場合に限ります。

☆手続に必要な書類

- ①委任状
- ②写真(三、〇×二、四cm)一枚
- ③運転免許証(コピーは不可)
- ④手数料 二、六〇〇円

※申請しようとする運転免許試験場に事前に確認をとってください。



## 補習校便り

補習校では一月八日から三学期が始まり、現在子供たちは元気に登校してきています。

全員が顔をあわせた一月十三日、大使館をお借りして恒例のかるた・もちつき大会を行いました。かるた大会は今回で二度目ですが、今年は新大使館の広いホールに絨毯を敷き、立派な建物の中で本格的な大会となりました。いつもと勝手が違う子供たちはいく重み積張気味の様子でしたが、二学期から練習を積み重ねてきただけあって白熱したレベルの高い試合が展開されました。学年ごとに二、三人のチームに分け、トーナメント方式で優勝を競うのですが、昨年よりも一層レベルが上ががり、最初の二、三文字を読むだけでバシツと札を取る音が聞こえてくることもありました。今年には僅差で五年生のチームが優勝しましたが、準優勝の中学三年生をはじめどのチームが勝ってもおかしくない程各学年とも実力が伯仲していました。今年優勝できなかった子も来年は頑張るぞとはやくも気概を見せています。補習校の子供たちは何事につけても熱中しやすく、ともすれば加熱しすぎるきらいがありますが、素直な子供らしさは現在日本の子供たちがわすれかけているものなかもしれません。今年のかるた大会はそんな補習校の子供たちの性格を如実に示してくれるものとなりました。

もちつき大会の方は駐車場の一角をお借りして保護者の方々のご協力のもと、たくさんのおもちがつきあがりました。お父さん方にまじって今回はお母さん方も重い杵を振るい、日本のなかな



が見られない光景を目にすることができました。子供たちにとっては日本の伝統行事に触れ、家族と一緒に過ごした楽しい場になったと思います。このもちつきの様子は翌日のハンガリーの夕刊紙に「新年を祝う日本人」という見出しで掲載されました。会場を提供してくださった大使館の方々やお世話になった保護者の方々に改めて御礼申し上げます。

現在は、普段の授業と並行して文集作りの作業に取り組んでいます。今年は「楽しかったこと」というテーマで作文を書いていきます。まだ下書きの段階ですが、冬休みの家族旅行のことや友達と遊んだことなど、思い思いに書き始めています。楽しいことがありすぎてどれを書いているのか迷っている子もいます。異国の地でたくさんの経験を積み、楽しい時期の真っ直中の子供たちにとってはおかえって難しいテーマなのかもしれません。数年、数十年経って子供たちが大人になって振り返ったとき、ハンガリーでの生活が楽しい思い出と共に胸に刻まれていくれたら幸いです。

## 作文

### 決勝戦

五年 玉木 由佳

「今から決勝戦を始めます。」と先生たちが言いました。これで勝てば……優勝だ……と心で思いながらじゆうたんに座り

ました。

中学三年生にジャンケンで負けたので、好きな方のカルタのたばをとれませんでした。が、けつこう私の得意なふだがありました。ならば終わってから約一分で、唐沢先生がふだを読み始めました。最初の方は私のチームが勝っていました。あとの方になって、ふだが少なくなると、むこうがいきなり反撃してきて、バシバシバシ！とドンドンとついでいきました。

むこうがとったカルタのたばと、こつちのとったたばを見ると少しの差ですが、こつちが負けています！ゲツゲツ！やばい！と思つて自分の前にあるカルタだけでもとらなきや！と思いました。そうしたら、思っているそばから、自分の目の前にあるふだをとられてしまいました。・・・それから約五分で、カルタは二枚になりました。チラリとむこうがとったたばを見ると、ほほうちのとったたばと同じぐらいでした。どつちが勝つかこの最後でできるのか？と思つてかすを数えると、なんとうちのカルタのまいすうは二十六まいでした！カルタは全部で四十八まいあるので、この最後の二まいをとろうともしませんでした。・・・でも、ギリギリ一まい差で勝ちました。

「やーったあ！」と三人そろってさけびました。今思うと、むこうの気をわるくしてしまつたかもしれない。・・・と思いましたが、がんばって練習したかいあつて優勝できました。また来年もがんばりたいです。

バシッ！バシッ！バシッ！

五年 中西 あずさ

一月十三日の朝、私はタクシーで大使館へ行きました。でも最初にタクシーからおりた所は大使館ではなくて他の場所でした。お母さんが言い直したら「ア〜〜」と言ってまたタクシーを走らせました。2〜3分たつたら大使館につきました。私はわくわく、わくわくと言いながら走つて中まで行きました。

中には、じゆうたんがひいてありました。私がじゆうたんをふみそうになった時、先生たちが「そこはのらないで！」と言つたので後ろむきのスキップをしてゆかの方へ行きました。

「今から、カルタ大会を始めます。」この声と同時に私の胸がドキドキしてきました。私は自分の得意な札をけっこういっぱいグループの人たちからもらいました。こんなに私にいい札をくれたんだから絶対に相手に私の場所においてある札をとられないようにしなければ・・・と私の胸は前よりもっとドッキンドッキンしてきました。一番最初は中学二年生のAチームと戦いました。私はあやうく自分の場所の札を取られそうでした。でも私たちは中学二年生に勝ちました。私はちよつとだけだけど優勝に近づけたのでうれしかったです。その次は中学一年、次に小学四年生、二チームともすぐ強く負ける！と思つた時もういっぱいあつたけど、私たちのチームは勝ちました。次は決勝戦です。その前に三十分ぐらい休みがあつて、私はおもちゃをいっぱい食べました。三十分後、いよいよ決勝戦です。相手は中学三年生です。私は「桜

さく 大日本ぞ 日本ぞ」という札を取られてしまいました。私たちはとてもあせつてしまいました。最後の三枚に中学三年生がダブルおてつきをしたので二まい札をもらいました。それで私たちが優勝できました。私はお父さんに言うのと、「それじゃあ中学一年生はわざと負けてくれたんじゃないの？」と言われました。私はあんまり気持ちよくなかつたけど、優勝できたのはとてもうれしかったです。

かるた大会・もちつき大会

四年 唐澤 明子

一月十三日にかかるた大会ともちつき大会があつた。はるかちやんと私、二人だけのチームだった。去年はゆうしようした。今年はみんなすぐ強くつたので、とてもこわかつた。

最初は中学三年生とやつた。二人チームと三人チーム、それにとても強い。私は、やつている時、ブルブルふるえていた。ちやんと覚えていかるかるたもほとんどとられてしまった。私はこわくてしかたなかつたけど、はるかちゃんはぜんぜんこわがつていなかった。

私があまりにもふるえていたので、こつちのチームは負けてしまった。かるたが全部終わつても私はふるえていた。

次、私達は四年のAチームをおうえんにいった。三年生とやつていた。私は心の中で、「がんばれ、がんばれ、四A。」とさわ

いでいた。四年生が勝つたので、私はうれしかった。けど、また強い人とやらなければならぬので、またドキドキしてきた。

次は、練習をした。けい君と和明君とアダム君と練習した。その時、私は一回戦で負けたことがくやくしくてぼんやりしていた。だから、練習の時も負けた。その次は、四Aが五年生とやるので、おうえんに行った。まだ心の中はパニックになった。ブルブルふるえながらおうえんしていた。でも、負けてしまった。それは、私がふるえながらおうえんしていたからだと思う。終わったら今度はけっしようせんだ。その前に、もちつきを見に行った。私は、がつしながら食べた。私ももちをついた。去年はきねを一人で持てなかったのに、今年はずんと持てた。それに、去年は三つしか食べなかったのに今年はずも食べた。今年はずもちつきにがつがつしていただけで、かるたは全然だめだった。

### おもちつき

中三 セーカチ エステル

「やった！ 準優勝勝った。決勝戦へ進める。！」

タマーシ、ペーターと私の三人のチームは、決勝まで勝ち抜きました。私は今年はず優勝をねらえると思っていました。中三は今年三人だし、一番上の学年だから自信がありました。それでも決勝戦までくると、結構いらいらしてました。十一時から始まる決勝戦までは、落ち着かなくて、ソワソワしてました。

そして、決勝戦は、惜しくも負けてしまいました。普通ならまた来年頑張ればいいと思うけど、私達は今年が最後だから、勝ちたかったです。まあ、準優勝もすごいから文句はいえませんが、おもちはすぐおいしかったからそれで引き分けです。

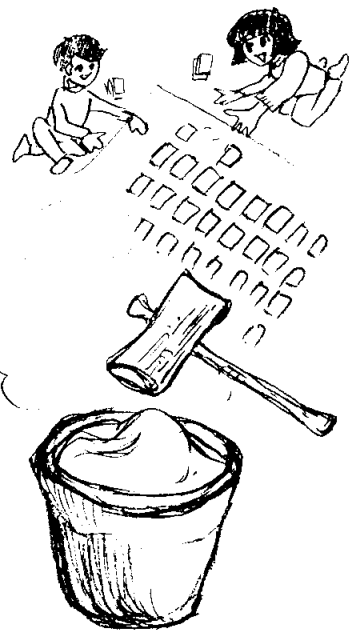
### カルタ大会

中三 トウルチャーニ タマーシ

今年の一月十三日の土曜日に日本大使館でカルタ大会ともちつき大会がありました。この大使館はまだ去年の9月にできたばかりなので、とてもきれいな建物でした。最初にカルタ大会がありました。対戦するチームはくじ引きで決めました。僕のチームは僕とペーター君とエステルさんの三人でした。僕たちは三試合連続を勝ちぬいて決勝戦へ進みました。決勝戦の前に三十分ぐらいの休憩がありました。そのあいだにもちつきが始まりました。僕はあまりもちを食べなかったけれど、ペーター君と一緒にもちをつきました。十一時になってから決勝戦が始まりました。僕はあと一息で惜しくも五年生のチームに負けてしまいました。カルタが終わってから、またもちつきがつぎました。十二時半から終わりの会と表彰式がありました。あと一息で勝てることを惜しくも負けてしまったので残念だったです。

一九九六年一月十三日の土曜日にカルタ大会ともちつき大会がありました。あたりしくできた日本大使館にみんなあつまってもからカルタ大会のくじ引きをしました。一発で4Bというとても強いチームとあたりました。でも僕達のチーム（タマーシ君、エステルさんと僕）は練習していた時よりおどろくほど強くなっていたので勝つことができませんでした。つづく二つのチームもうんよく勝ち抜いて決勝戦まで進みました。決勝戦の前にもちつき大会をはじめました。最初先生達やお父さん達もちをついてからつきたい人達が順番についていきました。それまでおもちはきらいだったのに食べてみたらけっこうおいしかったです。

三十分ぐらいたって決勝戦がはじまりました。あいては五年生のチームでした。ここまで来たらもう勝ちたかったのにさんねんながら負けてしまいました。このあとまたおもちをついてから少し食べました。十二時半ぐらいにおわりの会をやってから家に帰りました。



## 随筆

奨学生時代の思い出

渡辺 まり子

モスクワ広場から56番のバスかトラムで Huvosolygへ、そこからさらに乗り換えて Mariaremete 通りを10分程行ったところに vendeghaz がある。正式な名称を A Muvvelodesi es Kozoktatasi Miniszterium Vendeghazとしよう。私は1992年秋から約二年間を他の国の奨学生達と共にここで過ごし、さまざまな知識とかけがえのない友人達を得た。今、その時の思い出を綴ってみようと思う。

まず、vendeghazの“外”について。モスクワ広場から2本のバスで約30分かかるところからわかる通り、ブダペストのはずれの非常に環境の良いところにある。日本人の多くが住む rzsadombと同じII区にあるが、方角が違い、アパート形式の住居はほとんどなく、お屋敷が立ち並んでいる。すぐ前が有名な Mariaremete 教会、入り口までまっすぐにのびた並木道はいつの季節も美しく、格好の散歩道である。20分も歩けば山道に入り、特に紅葉の時期の眺めは素晴らしい。こんなところに vendeghaz は位置している。

次に“中”の模様を。地階に教育文化省から送られた大家さんの部屋、学生達が共同で使うキッチンと居間、そして一階と二階

に学生達の部屋がある。普通の家を改造してつくられたため、ひとつひとつの部屋の大きさはまちまちで、均一をはかるために小さな部屋の人には大きなバスルームが当てられるようになっていた。どの部屋にも生活するのに必要な木目調の家具が据え付けられ、勉強するにはいい環境であると思う。庭は広く、芝生はいつもきれいに手入れされていた。

私がかこへ着いたのは残暑の厳しい9月だった。(ハンガリー政府の奨学生として来ることが決まったとき、住む場所はここ、と知らされた。そのころは最初からこの家に住む学生は少なく、たいていはホームステイのような形で暮らしていて問題があり、教育文化省に苦情をいうと、じゃあここへ、と言われたそうである。たぶん私はこういうところはいや、という条件をいくつかつけたので、文句を言われぬように、という配慮だったのかも知れない。)荷物もあり、地理もわからないためタクシーで行き、ベルを鳴らすと大家さんが出てきて温かく迎えてくれた。日本で少しハンガリー語を勉強してきたものの、何を言われているのか全くわからず、これからの生活を思うと気が重くなったのをよく覚えていて。新学期が始まる時期だったので私の後にも何日かにわたり、続々と学生が到着した。まず、お父さんがハンガリー人のスウェーデンの学生、Catherine。子どもの頃、毎年一度はハンガリーに来ていたそうで、ハンガリー語がとても上手。経済の調査に来たのだと言う。次にベルギーのヴァイオリニストの Elisabeth や Michell。フィンランドのジャーナリスト、Heimo。

この5人で共同生活は始まった。

まず、生活するのに必要なのは言葉である。Catherineを除く私たち5人はハンガリー語がほとんど話せなかったので、とりあえずの共通語は英語となった。ドイツ語、フランス語の方が、という人もいたが常に誰かに阻止され(フランス語になっていたら私はどうなっていたのだろう...)、ホツとしたものだ。すぐに学校が始まり、それぞれの生活が軌道に乗り始めるとだんだんとハンガリーの単語が不気味に英語に混ざるようになり、クリスマスのころにはほとんどハンガリー語で何とか意志疎通が図れるようになった。音楽が好きな私は Elisabeth と Michell と毎日のようにコンサートに出かけた。お昼に家にいるときには練習しているのがよく聞こえ、今日はどんな曲を弾いていて、調子はどうか、さらにはどんなところでつまずきやすいかまで、手に取るようにわかってしまい、発表会の時などドギマギし、子供の発表会に出かけてそわそわしている母親の気分を早くも味わった。家族(?)揃ってオペラやバレエにもよく出かけた。オーケストラを気にする私たちに対し、あまり興味のない Heimo は次の休憩では何を飲もうか、という話ばかりしていたのが忘れられない。

共同生活で楽しいもののひとつに食事がある。「持ちつ持たれず」で家に帰れば豪華な食事が並んでいることもあれば、私が日本料理を作ることもあったし、逆にみんな密かに期待をして誰もほとんど食べ物を持っていなかったとき、りんごを薄く切り、バターで焦げないように炒めてシナモンと蜂蜜をかけて食べるとお

いしく、お腹も一杯になるといふ発見もした。逆によくない、といえるもののひとつは勉強しているとすぐ、「お茶でもどう？」などと誘惑されることである。私と Catherine は毎回かなりのリーダーリングを出す先生についていて、特にそれが読み終わらないと悟ったとき、お互いに声をかけていたように思う・・・。

秋はスポーツやダンス、冬は雪合戦（こちらの雪は水分が少ないので、一度作ったボールを一回水にくぐらせると効果がある。）、春になればあちこちへでかけ、あつという間に10ヶ月が過ぎ、別れの季節、夏を迎えた。三ヶ月、アメリカで仕事をする事になった私は一足先にハンガリーを出、次に戻って来たときには知っている人が誰もいないとわかつてはいたものの、とても寂しかった。それからまた新しい学生達との生活が始まり楽しく過ごしたが、初めてだったからなのか、この、最初のメンバーが最も印象に残っている。あれからもう二年経つが、相変わらず連絡を取り合っていて、私はベルギーにもスウェーデンにも遊びに行つた。言語の面では陸の孤島であるブリュッセルに住むフラマン系の Elisabeth は自分の国に住んでいながら家の中ではフラマン、外ではフランス語を話すのを実際に目にして、そこで生きる人々にとっては当然であっても、私にはとても不思議なものに映つた。スウェーデンでは身体の不自由な人があらゆるところで働いていたし、外国から養子、養女を得るのが珍しくないのです、彼女のインド出身のいところにも会い、本当に自然な親子の姿にすがすがしかった。「自分の国を誇りに思う」と胸を張つて言う彼女が羨ま

しくもあつた。

今思うとハンガリーで勉強する、という共通の目的を持ったほかの国の人たちと一緒に暮らせたのはこの国だけでなく、いろいろなところで生きる人々の考え方を知る上で大きな収穫となつたと思う。来年も会おう、という計画が進んでいる。今度の集合場所はどこになるのだろう・・・。（実際、これでいつもモメるのである。）それぞれ教師やオーケストラのメンバーなど、社会人となつたみんなに会えるのを心待ちにしている。

## 帰国して

瀬川 隆生

皆様その後お変わりなく、お過ごしでしょうか。ハンガリーを去つてから半年、私どもは家族共々元気に暮らしております。もともとが日本人でありますから、日本に戻るのに時間がかかるわけがないのですけれど、ハンガリーの生活に慣れるまでの時間のかかり方に比べますと、本当に超特急で、明くる日からでも以前と変わらない日本の暮らしが始められ、不思議とも写る現象でありました。

いつもの事ですが、海外赴任を終えて帰つてまいりますと、良くも悪くも、日本という国の存在、日本人の価値や問題点などが、

客観的にながめられ、国内にいるときには気がつかなかった多くのものが、見えてくるように思えます。私なりに感想はあるのですが、いつか、皆様が、帰国なさって、そんな話題になった時話し合ってみたいと思います。

ブダペストの生活は、一言で言えば、“人間回復”という言葉が浮かんでくるような余裕が漂ったものでした。ゆったりと横たうドナウの流れのごとくこの国の時間もゆったり流れていて同じ一日でもなぜか余裕を感じさせるのです。

しかし、一方では、国民の意欲なり、生活のパターンなりが、日本人の考える、いわゆる常識の範囲から、かなりずれていて、ある程度ハンガリー的に頭を切り替えないと腹ばかりたつて疲れてしまう実態があったことも確かです。そして皮肉にも、そうすることがハンガリーの人々とうまくつきあつていくための必要な条件だったのです。

私が参りました当初は、市場経済移行2、3年目で、まだまだ旧経済体制の名残が、各方面に顕著でした。会社というものを、あたかも勝手に永遠に存続していくものでもないという捉え方、仕事場での公私混同の行為や約束や時間を守らない事への罪の意識のなさなど、初めのうちは、とんでもない問題の山積みでした。

逆の立場に立ってみますと、ハンガリーの人々にとって、それまでの体制や価値観、指針が大転換した過渡期に古い体質を切り替えるのは、そう容易なことではなかっただろうと思います。個人的なことではありますが、その意味で我が社のハンガリー人ス

タッフ達が、素直に協力してくれたことに誇りを感じています。

考えてみると、このような国の政策の大転換期に東欧の変動する様子を垣間みる機会にめぐり会うことは、なかなかないことです。試行錯誤に進むハンガリーで共に仕事ができたのは、ある意味では、ラッキーな事だったのかも知れません。

素朴で純情で、強い愛国心と、熱い情熱を秘めたマジヤール人の気質は、民族舞踊等にも表れていると思いますが、一度、互いを理解すると、いい関係が保てる人々ではないかと思えます。

家内は、日常生活の中で、現地の人とのつきあいが多いようでしたが、フラワーアレンジングの手伝いに行ったり、籠を作ったり、語学を勉強したり、ある時には、一緒に買い物に出かけたり、お茶に呼んで頂いていたようで、結構楽しそうに過ごしていたように思います。日本を離れる三年前には、随分ブダペスト行きを渋っていたのに、心を開いて飛び込んでみることに、周囲にとけ込もうと出来る努力はしてみるのが、大切かもしれません。ブダペストでは、よくオペラにも出かけました。オペラファンの人から見れば、大したことはありませんが、それでも、滞在中、五十本以上は観ています。家内は、ハンガリー語の字幕があるので、それを読みながら鑑賞していると半分くらいは意味が解るようでしたが、私は専ら英語のプログラムの解説書を読んでいました。ワインもテーブル用としては、立派なものが多く、“コストパーフォーマンス”のいいのが、ハンガリーワインだと思えます。新しいラベルを集めだしたら、面白くなっているような種類お捜す

のも楽しみでした。三五〇種近くに上るスクラップブックに貼り付けたラベルは、いい記念となりました。帰国しても食事ワインは、習慣になつてしまつて、毎日かかせないものとなつています。

ブダペストは運動が好きなのにも恵まれた環境だったといえます。テニス、ゴルフは勿論の事、簡単に水泳や乗馬を楽しむことができます。私はよくマルギット島にジョギングに出かけました。

高い山がないとはいへ、ブダペストのすぐそばに、ヤーノツシユ山やドボゴグの丘等があり、十分にハイキングも出来る所です。子供達はヤーノツシユ山のリフトや子供電車が気に入つたようでした。

一局集中型都市の典型、ブダペストを一步抜け出てみるとハンガリーの地方ほど、地方らしい国もありません。田舎そのものを、その姿で味わえることは、珍しいと思います。都会化して町も田舎も少なくなつてきている多くの国の中では、貴重なことです。大平原の騎馬民族の末裔を、彷彿させる馬術、どこまでも続くヒマワリ畑、道端から一斉に飛び上がる鳥の群、時々お目見えするつるべ式の井戸、……。

ミシユコルツ、タポルツアの洞窟温泉や、ヘービーズの温泉湖も他では見られない興味深い場所ですし、モハーチのプーシヨールやホロツコのイースター祭りも素朴な味わいがあるものです。

ハンガリーにおける私どもの生活が、楽しかったことの大きな理由は、親切な素晴らしい日本人の方々との出会いがあったからということ、言うまでもありません。ブダペストは、日本人が

仲良くまとまるのに、都合のよい人数だと思ひましたし、実際、和気あいあいと、いろんなグループの方々と一緒に過ごして頂き、愉快に過ごせたことを、感謝しております。また、日本大使館の方々にも家族共々、色々お世話になりました。商工会、学校運営等々で、多大なご協力を頂き、スムーズに商工会幹事、並びに、日本人補習校理事長の任務を、無事終えることが出来ました。皆々様に、この紙面をお借りして、深く御礼申し述べさせて頂きます。有り難う御座いました。

最後に、皆様にとりまして、この先、さらに思ひ出深いブダペスト生活になりますよう心からお祈り申しております。

### 「ドナウ通信」編集室より：原稿の締め切り

日本人会所有の東芝ルポの調子が悪く、今回はIBMコンパチ機を使い、DOS・V上の日本語ワードで編集しました。プリンターはHPのレーザープリンターです。

今年の「ドナウ通信」は次回が四月初め、その後は七月、一〇月となります。それぞれの前の月の月末まで、原稿をお寄せください。原稿の送り先は、次の通りです。

NRI Budapest, 1088 Bp. Rakoczi u.1-3

TEL/FAX: 296 / 4967